

本年度の学校評価

本年度の 重点目標	『常に高い志（目標）を持ち、実践していくと共に一つ上を目指す』 ～グローバル人材・リーダーの育成に努める～		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの連携を図り、円滑に教育活動が行えるよう推進する。また、刊行物等、情報発信の工夫に力を入れたい。 ・式典の厳粛な進行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会・委員会やメールなどで意見を求め、保護者のニーズを知り、こたえるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を出しやすい状況を作るため、配付物や役員会、委員会の工夫を図る。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理、指導要録の作成に校務支援システムを活用し、正確で円滑な成績処理システムの構築。 ・生徒の学力向上と学習習慣の定着を図る。 ・新教育課程の編成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より安全で正確な成績処理システムを検討する。 ・各学年で学習時間調査を実施し生徒にフィードバックする。 ・新学習指導要領に沿った教育課程を編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの入力が円滑にすすめられるように、教育情報部とも連携する。 ・各学年と連携し、年2回調査を実施する。 ・各分掌・学年と情報を共有し、本校の教育目標にあった教育課程を編成する
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の交通マナーを向上させ、交通事故件数を減少させる。 ・生徒自ら規律を守り、自立することができる生徒を育てる。 ・いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの命を守るための啓発活動、日頃の立ち番指導を全職員で実施する。 ・日常指導の場面で、自ら考え行動する意識の向上を図る。 ・情報モラルの向上を図り、携帯機器との関わり方を啓蒙する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守ることができない生徒が出てきた場合は、自転車通学の禁止も視野に入れて指導をおこなう。 ・自律した生徒を育てるという目標を職員間で共有し、全職員が同じ意識のもとで生徒への指導および声かけを実施する。 ・スマホへの依存を防ぎ、生徒個々が成長できる健全な人間関係の構築を目指す。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒にとってより有意義な進路選択を実現させる。 ・新課程入試への対応を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりを発行し、情報を積極的に発信する。 ・大学案内等の配置を工夫し、生徒が情報を得やすいようにする。 ・補習や模擬試験のあり方や進め方を工夫する。 ・新課程入試に該当する学年と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりでは、卒業生の書いた受験レポートなどを有効に活用する。 ・国公立大学の魅力を伝える。また、県外の大学を身近に感じることができる工夫をする。 ・補習において、受講するクラスのレベル分けや問題の精選を行う。 ・新しい情報を見逃さず、該当学年団と共有する。
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の方法について研究する。 ・図書館利用の啓発を努める。 ・ICT機器の活用法について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内やホームページの内容について見直す。 ・紙媒体だけではなく、さまざまなアプローチの方法を研究する。 ・ICT機器の利用法を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの速やかなアップの方法を検討する。学校案内については対象者のニーズについて検討する。 ・現在までの施策の他に、別のアプローチの方法を検討する。 ・さまざまなICT機器に対応できる体勢を構築する。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を活発化する。 ・学校全体が意欲に溢れる学校行事にする。 ・部活動の合理的な活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部、各委員会を生徒主体で開催する。 ・生徒が行事に主体的に取り組める雰囲気を作る。 ・部活動への側面支援と指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体で活動する機会を増やし、生徒の意見を生かしていく。 ・学校全体への情報発信、職員の役割分担の精選により、行事内容の充実を図る。 ・部顧問と積極的に連携し、合理的な活動で練習の効果を高める。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止と早期発見に係る取組を充実させる。 ・いじめ対策の具体的事例について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや、教育相談委員会を通じ、状況の正確な把握を図る。 ・研修を通じ、いじめに対する職員の共通認識を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容が適切か見直すと共に、教育相談委員会の柔軟な開催について留意する。 ・文部科学省から出された「いじめ対策に係る事例集」等の有効利用を図る。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	<ul style="list-style-type: none"> ・開錠及び施錠時間を設定する。 ・行事、業務内容の見直しにより業務内容の適正化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導など、教員の意識改革を進める。 ・仕事の効率化を図るための意見集約を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省から示されたガイドラインを参考に、学校としての取り組み方を考える。 ・行事日程を見直し、年休等を取りやすい環境を作る。
学校関係評価を実施する 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・学校指導、進学指導の充実状況について。 ・学校行事、部活動の充実状況について。 ・本校に期待することについて。 		

前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
本年度の 重点目標	『常に高い志（目標）を持ち、実践していくと共に一つ上を目指す』 ～グローバル人材・リーダーの育成に努める～		
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの連携を図り、円滑に教育活動が行えるよう推進する。 ・式典の厳粛な進行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会・委員会では意見の出しやすい雰囲気を作り保護者への配付物にも工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気としては良かったように思う。ただ、学校へ求めるものに対して、応えられていない部分もあるので、情報を発信し、意見を求めていきたい。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理、指導要録の作成に校務支援システムを活用し、正確で円滑な成績処理システムの構築。 ・生徒の学力向上と学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムをマニュアル化し、職員にわかりやすく、正確な処理システムを検討する。 ・各学年で学習時間調査を実施し生徒にフィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度は校内の成績処理と校務支援システムとのスムーズな連携を目標とし、教員の庶務の簡素化を進めることができた。本来の目的である授業準備に時間が使えるようにさらに簡素化を進めていきたい。 ・学年ごとに学習時間調査を実施した。わかりやすい資料を作成し、学年と連携して生徒に還元していきたい。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の交通マナーを向上させ、交通事故件数を減少させる。 ・生徒自ら規律を守り、元気に挨拶できる意識を育てる。 ・いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの命を守るための啓発活動、日頃の立ち番指導を全職員で実施する。 ・日常の指導場面を通じて自ら考え行動することを促す指導を心がける。 ・いじめ防止をテーマとした活動機会を設ける。アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・並進走行、斜め横断など安全に対する意識向上は今後の課題である。日常のありとあらゆる指導場面にて、根気よく指導を続けたい。 ・整った制服の着こなしが必要な集合する場面、職員室への入室など、各自の意識向上は見られる。継続していきたい。 ・いじめの温床として、SNS上でのトラブルが目立つ。情報モラルの教育を徹底したい。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の観点を持った進路指導を行う。 ・学年団との連携を図り、本校生徒にとってより有意義な進路指導の体制を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「職業ガイダンス」「大学出張講義」「看護実習」等を行い、生徒の勤労観や進路意識の向上を図る。 ・進路に関する情報を教員にも積極的に提供し進路について理解を深める場を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は本校生徒に適した進路指導について深く考え、実践することができたが、生徒や保護者にまでは浸透しなかった部分がある。 ・新課程入試について理解を深めていく必要がある。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の維持・改善を図る。 ・スクールカウンセラー（SC）と協力して、教育相談活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動を充実させ、清掃点検を実施する。 ・生徒情報を集め、SC面談が必要な生徒を速やかに面談につなげ、対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの床等に水を流して清掃する方法を、奨励していく。 ・担任・学年主任に、気になる生徒について保健部に連絡をしてもらうようにする。 ・SC面談後に、関係職員が面談の報告を聞き、その後の対応を話し合う。 ・清掃が不十分な場所には改善を求める。
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な情報発信を行う。 ・図書館利用の啓発を図る。 ・ICT機器の効果的な活用法を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内やホームページで効果的に情報発信する。 ・読書会や図書館だよりで、生徒の啓発に努める。 ・ICT機器の利用法を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内は中学生や保護者を意識し、見やすい構成にするように意識した結果、強くアピールすることができた。また、ホームページは来年度も活発に更新をしていきたい。 ・読書会などを行ったが、利用者はあまり増加しなかった。更なる利用者増の方法を考えたい。 ・周辺機器を整備することで利便性が高まり、ICT機器利用を気軽にできるようになった。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を活発化する。 ・学校全体が活気に溢れる学校行事にする。 ・部活動の合理的な活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部、各委員会を生徒主体で開催する。 ・生徒が行事に主体的に取り組める雰囲気を作る。 ・部活動への側面支援と指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部発案の募金活動の実施、評議会の活発化等、生徒主体の活動が見られた。 ・生徒会役員選挙が決選投票となるなど、生徒が意欲的に取り組む姿が見られた。 ・全国大会、東海大会等の上位大会に多くの部活動が進出し、合理的な活動の成果が現れた。

学校いじめ防止基本方針に基づく取組	<ul style="list-style-type: none"> いじめを未然に防止する。 いじめの早期発見に努める。 情報の共有化を図る。 組織的に迅速に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現職研修等の充実により全教職員がいじめに対する共通理解を持つ。 教育相談委員会を定期的に関き、生徒の情報収集と情報の共有化に努める。教育活動全体を通し、生徒の情操教育に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修で具体的な事例を積み上げることでいじめに対する共通理解を深めることができた。 教育相談委員会を定期的開催することができ、生徒情報の共有化が進むなかで、いじめアンケートを有効的に活用し、早期に対応することができた。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	<ul style="list-style-type: none"> 多忙化解消に取り組む。 在校時間等状況記録を有効に利用する。 教員の意識改革を図る。 年次休暇などを取得しやすい環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎施錠時間を設定する。 職員会議のペーパーレス化と効率化を目指す。 面接指導を受けることを勧める。 	<ul style="list-style-type: none"> 施錠時間の固定により、勤務時間に対する教員の意識を高めることができたが、効果的な仕事量の削減には結びつかなかった。 職員会議を短時間で終わらせることができようになり、年休も取りやすい環境になったが、面接指導希望はほとんどなかった。
総合評価	各分掌とも、重点目標に対し計画的に取組み。大きな成果を上げることができた。特に、勤務時間の適正化への取組の中で進学実績、部活動実績共に例年とほぼ変わらない成績をあげることができたことの意義は大きい。		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 勤務の適正化への取組 交通マナー等、生徒の規範意識向上への取組 学習指導、進学指導充実への取組 学校行事、部活動の充実への取組
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> 施錠時間の設定、留守番電話の導入等、勤務適正化に対し積極的に取組んだ。 車との接触事故や地域からの指摘も多く、更に積極的に取り組む必要がある。 ICT環境の整備が進み、ICT機器の積極的な活用が進んだ。進学、部活の両面でしっかりとした指導を行うことができたが、保護者、生徒の要望は更に多様化してきており、いっそうの努力を要する。
今後の改善策方策について	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの中で、進学、学習指導に対する期待が非常に大きく、教員一人一人の力量を更に高めると同時にICT環境の整備を進める取組が必要である。 施錠時間の他に開場時間の設定を行い、業務の見直しを進めながら、勤務の適正化を図る。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が非常に生き生きと授業を受ける姿を見ることができた。集団で話し合い、意見を発表するなど、主体的な学びが進められていることがわかる。 先生が街角に立ち交通マナー指導をしている姿をよく見ることがある。そういった先生方の頑張りが子供達に伝わるように願いたい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> 構成…学校評議員4名、保護者代表1名 評価時期…2月上旬

(5) 経営管理上の問題点

- ア 自転車通学者が90%以上であり、登下校時の交通事故が心配される。警察と連携を取り、特に自転車の交通マナーの向上を図ることが重要である。
- イ 職員の年齢構成において、50歳代と若年層が多く、現職研修や校務分掌においての将来のミドルリーダーの育成を図ることが課題である。